



あきた病院

だより



今月の写真

『森吉山 ゴンドラから観る紅葉』

あきた病院から北東へ約110km、北秋田市阿仁地区にある森吉山 阿仁スキー場では山頂までゴンドラで約20分、気軽に360度の壮大なパノラマを楽しむことができます。ゴンドラから観る紅葉の美しさは東北屈指ともいわれています。撮影した日は、あいにく雨模様でしたがそれでも素晴らしい景色を堪能することができました。森吉山の紅葉を観賞するゴンドラは毎年期間限定で運行されます。是非来年の10月に訪れてみてはいかがでしょうか。

あきた病院の理念

心のこもった 癒しの医療

あきた病院の基本方針

- 1 患者さんの権利を尊重し安心できる医療を提供します
- 2 快適で満足できる療育環境を提供します
- 3 政策医療を担いかつ地域医療に貢献します
- 4 研究・研修を推進し専門性ある医療の向上に努めます
- 5 生きがいのある職場作りを目指します

令和2年度総合防災訓練を終えて

エネルギー防災管理室長 三上 正晴

あきた病院では今年度の総合防災訓練を9月30日(水)に実施しました。当日は、由利本荘市消防本部並びに消防岩城分署のご協力のもと晴天の中、無事訓練を実施することが出来ました。災害想定は14時00分に日本海沖にて震度6強の地震が発生したことで実施しました。

主な訓練内容は

- ① 5階病棟倉庫より火災発生のため模擬患者(訓練用人形)の避難誘導及び消火活動
- ② 5階病棟逃げ遅れ者3名のはしご車での救助活動
- ③ 4階病棟断水のため1階～4階まで非常階段使用での非常用水ペットボトル5箱搬入
- ④ 外来ホールでは地域住民の避難受け入れを想定し、模擬患者のトリアージ実施
- ⑤ 自家発電設備故障停止による予備ポータブル発電機での電源確保
- ⑥ サービス棟調理場電化厨房全壊のため非常食(模擬)準備
- ⑦ 衛星携帯電話による北海道東北グループへの情報伝達

等です。



地震後、迅速に東棟3階事務室に訓練災害対策本部を設置し、本部指示のもと当院の自衛消防組織6班が総力を上げて訓練に取り組みました。訓練終了後の消防署の講評では、「地震や災害はいつ発生するかわかり

ませんが、火災については予防出来るので初期消火に必要な消火器、補助散水栓の使用方法を覚えてください」と講評を頂きました。最後に奈良病院長より、「東日本大震災は1000年に1度の地震と言われましたが、来年



1500年に1度の地震がくるかもしれません。いつ何が起こるかわかりません。実際に災害が起こると想定しうる以外の事が起こります。想定外の事が起こりえると考えながら、普段から仕事をしてください」と挨拶を頂き、総合防災訓練は終了しました。コロナ禍での訓練という中で消防計画で色々制限がありましたが、無事に訓練が出来てホッとしています。今後もあきた病院職員一人ひとりが自衛消防組織のメンバーとして行動できるように、訓練を積み重ねていきたいと思えます。大変お疲れ様でした。

治験実施に向けて

薬剤科長 金澤 郁夫



▲スタートアップミーティング開催

ひと昔前までは、筋ジストロフィーをはじめとする神経筋疾患の治療薬の開発など夢のようなお話でしたが、研究が進みさまざまなお薬の治験が行われる時代になりました。

当院では、平成24年から筋ジストロフィーなどの神経筋疾患に特化した臨床試験ネットワークMDCTN (Muscular Dystrophy Clinical Trial Network) に加盟※しており、この度、筋ジストロフィーの新薬の治験の紹介があり、始めることになりました(※現在MDCTNは患者登録システムRemudyと統合され、神経筋疾患先端医療推進協議会(CCNMD)として運営されています)。

当院では、これまで治験を行った経験はないため、薬剤科では、治験を実施するにあたり、SMO(治験施設支援機関)のサポートのもと、GCP(医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令)を遵守し、守るべき要件や必要な手順書の作成をしました。また、治験事務局や、受託研究審査委員会(IRB)の設置などの整備を行いました。コロナ対策としてWebでの説明会も行い、四苦八苦しな

がら進めている状況です。外部委員のご協力もあり、9月上旬に1回目の受託研究審査委員会の開催も無事行うことができました。10月中旬には、症状の正確な評価のため、外部から講師を招いて、理学療法士3名が運動機能評価のトレーニングを行いました。また、10月末には、治験を実際に行う医師や、看護師、コメディカル部門、依頼者およびCRC(治験コーディネーター)で、スタートアップミーティングが開催され、関係各部門に情報を提供し、治験が実施できる体制を整えました。

「事前ヒアリング」から「受託研究審査委員会」を経て「キックオフミーティング」「スタートアップミーティング」を行ってきましたが、今後は、治験薬搬入を行い、治験薬管理をしっかり行い、適性かつ円滑な治験の実施を目指して、効率的な運用を考えていきたいと思っています。治験の契約締結もすみ、まずは一段落しましたが、速やかに治験が開始されるように環境を整えていきたいと思っています。そして、実際の投薬が始まりましたら、患者さんが安心して治験を受けられるように、薬剤科として全力でサポート致しますので、どうかよろしくお願い致します。

第 74回国立病院総合医学会は新潟市の朱鷺メッセで開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ当地での開催を断念し、WEB形式で開催されました。

あきた病院では当学会に毎年積極的に参加し、今回も11人がシンポジスト等として参加しました。

今回の学会のテーマは「先進的イノベーションと支える医療の融合 求められる国立医療の構築～2020ときを越えて～」

あきた病院も国立医療の構築の一助となることを願っています。

経営企画室長 漆原 正芳

臨床研究部長 和田 千鶴

今回の国立病院総合医学会では、シンポジウム11～地域と繋がる神経難病医療の「壺から拾まで」～のシンポジストとして「行政とともに考える神経難病への災害支援」というタイトルでの発表でした。今年は新型コロナのことがあり会場には行けずWEB配信となりましたが、スライドにあわせてスピーチを録音して...の作業も初めての経験。やってみると案外楽しく、登壇すると緊張最高潮になる私にとってはWEB配信はうれしいかも、と思いました。それはさておき、近年の災害による被害は、日本中あちらこちらで聞かれるようになりました。頻発する災害に対し、行政がどのような仕組みの中で個別の災害対策をおこなっているか、そして、その仕組みの中で神経難病患者の災害対策をどのように考えていくべきか、などについての発表です。お時間がある方はぜひお耳をお貸してください。

療育指導室長 鈴木 司

今回の学会ではCOVID-19で求められる国立医療の検証をテーマにシンポジウムが行われました。全国児童指導員協議会に児童指導員の取り組みの検証を依頼され、協議会の副会長として児童指導員の取り組み状況について各施設に調査し、報告しました。初のオンラインのライブシンポジウムということで、発表が画面の向こうの視聴者の方々にちゃんと伝わるのか不安でした。今回の調査をとおして、療育活動や行事、外部団体の受け入れ、ご家族との交流など、すべてに見直しが必要となり、各施設ともに、他職種で協力しあいながら利用者さんに日常生活をどのように楽しんでもらえるか、様々な工夫をしながら支援を行っていることがわかりました。初のオンラインの発表は目の前に視聴者がいることを意識して話をしないと、原稿をただ読むだけになってしまうなど反省点が沢山ありました。今後も続く感染対策下の支援について、今以上に情報を共有し取り組んでいきたいです。

主任臨床工学技士 齋藤 雅典

私は今回、シンポジウム8「臨床工学技士のタスクシェア・シフトを考える」のオーガナイザを拝命しました。オーガナイザはシンポジウムのテーマに合わせた座長やシンポジストの人選、具体的な講演内容や総合討論の企画と依頼など、いわゆる現場監督的な役割を担います。今回の学会は、新型コロナウイルスの影響によって初めてのWeb形式となり、浮世絵「神奈川沖浪裏」の荒波のように無理難題？が怒涛のごとく押し寄せましたが、座長、シンポジスト、NHO新潟病院の臨床工学技士、大会事務局の皆さんのご協力の元、どうにかまとめることができました。

全国国立病院機構臨床工学技士協議会会長として、過去の協議会主催の学術大会が円滑に行われていたのは、裏方スタッフの皆さんの努力が大きいと感じる機会を得、感謝の気持ちを改めて抱くことができました。とはいえ総合討論の挨拶で、めちゃくちゃ噛んでしまい、編集でうまくごまかせなかったのは私の責任です。(汗)

作業療法士 高橋 寛人

今回で国立病院総合医学会への参加は3回目となります。昨年発表させて頂いた際は、他病院の先生方との意見交換、そして様々なアドバイスを頂くことができ貴重な体験をさせて頂きました。今回はこのコロナウィルスの影響でWeb開催という新たな開催形式となりました。例年の国立病院総合医学会では自分の興味があるシンポジウムや発表が重なってしまい、全ては見に行くことができないこともありました。今回は会期が4週間と長く、興味がある演題を全て見られることがWeb開催のメリットであると思います。新潟県の会場で発表できないことは残念ですが、Web開催のメリットを活かしつつ、充実した学会となるよう参加していきたいと思っています。

栄養士 竹内 桂子

10月に開催された総合医学会に参加させていただきました。

今回は「補助食品の形態別リスト作成について」の発表を行いました。当院採用の補助食品は、硬さや摂食時の形態などがそれぞれに適しているかを確認するため研究を始め、多職種の協力を得ながらまとめることができました。

人前で発表することになかなか慣れないため、Web開催で少しほっとしました。新潟に行くことができませんでしたが、日ごろの成果を発表できる機会に恵まれ感謝します。

エネルギー防災管理室長 三上正晴

今回の総合医学会は私にとって10回目の参加になりました。昨年は東京で資格試験のため参加出来ませんでしたが、今回は参加出来て良かったと思います。発表演題は「防災関係オリエンテーション用DVDを作成して～あきた病院におけるオリエンテーションを通して～第3報」です。このテーマでの発表は3回目となります。コロナ禍で新潟での発表は出来ませんがオンライン配信での発表となりました。今後も防災について継続して取り組んでいきたいと思っています。

南1病棟 看護師 板垣 洋子

私は国立病院総合医学会の参加は今回で3回目になります。ポスターでの発表は毎回、どのように作成すれば視聴していただく方々に分かりやすく伝わるか悩みます。色を派手にしたり写真を貼ったりと色々工夫してきました。しかし今回は新型コロナウイルスのため予定していた会場での発表ではなく、WEB形式での発表となったため、さらに誰もが見て分かるようなポスター作りを求められたように感じます。たくさんアドバイスを頂きながら完成することができました。今後また機会があれば今回の経験を元に参加したいと思っています。

北1病棟 看護師 佐藤 佳奈

昨年度の院内ケース発表を元に、今回は国立病院総合医学会への寄稿をさせて頂きました。事例として、普段より排便行動に問題のみられる患者さんに対して介入を行いました。患者さんの生活リズムや排泄の頻度・時間帯などを見直し、修正した看護計画を実践することで普段の患者さんとのかかわりよりも深く介入できたと感じます。また、そうすることでより患者さんのことを知ることができました。

寄稿にあたり新たに抄録やポスターにまとめることをしましたが、初めてのことであったので副師長さんや師長さんには何度も助言を頂きました。今年は現地での直接の発表をすることができず残念でしたが、私にとって貴重な経験となりました。今回の事例を通して、今後も患者さんへのかかわり方や看護の提供へと活かしていけたらと思います。

北2病棟 看護師 佐々木 佳奈

この度、「重症心身障がい児者病棟における多職種デスカンファレンスの現状と課題」というテーマで看護研究に取り組み、第74回国立病院総合医学会にポスターの寄稿をさせて頂きました。本研究では病棟研究メンバーと2年に渡って取り組み、統計分析にも自分達で挑戦した大変思い入れのある研究となりました。論文やポスター作成にあたり、御助言いただいた病院長先生はじめ、看護部長、病棟師長とたくさんの方々に、このような状況下でも自分達の取り組みを発表できる機会をいただきました事をこの場をお借りして深く御礼申し上げます。ありがとうございます。

北3病棟 看護師 佐藤 直紀

今回、初参加のため例年の状況を詳しくは把握していませんが、本来であれば本学会は現地会場で発表し、また多くの先生方の講演を直接拝聴できる絶好の機会だったと思います。しかし、第74回国立病院総合医学会は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、WEB上での開催となりました。例年とは異なる形式での開催とはなりませんが、個々人のペースで自由に発表を閲覧できたことは、WEB開催だからこそその魅力だったのではないかと感じます。本学会での学びを、今後の看護に活かしていきたいです。参加させて頂き、ありがとうございます。

東4病棟 看護師 佐藤 君美

この度国立総合医学会に参加させて頂きました。今回は神経難病患者と褥瘡をテーマとした発表を行いました。医師や師長、先輩方の助けがあってこそだと思います。また、褥瘡は発生しないといわれているALS患者の褥瘡発生に関する研究は今後の看護に生かせるものであると思います。そして初めてのWeb形式での発表となり、今後の開催方法がWeb開催となってくればより多くの方に目を通してもらう機会が増えるのではないかと考えます。このような機会を得られたことに感謝しつつ、今後に生かしていきたいと思っています。

看護部の取り組み

急変時ロールプレイング研修を受けて

急変時対応について不安を抱えた中での研修でした。新人同士だけでは知識が足りず難しいと感じることもありましたが、先輩方に指導していただきながらロールプレイングを行い、急変時対応の基本や報告の方法などを学ぶことができました。実際の急変時ではパニックになってしまうと思いますが、今回の研修で学んだことを活かし少しでも冷静に対応できるようにしていきたいです。そのためにも疾患についての知識を身につけ、日頃から患者さんをよく観察して緊急時を予測した看護を行って行きたいです。



看護研究発表会に参加して



今回、ケーススタディを行い、患者さんにとってより質の高い生活を送ることができるよう自分たち看護職はどのような関わりができるのか1年を通して学びを深めることができました。参加した看護研究発表会では患者さんを対象とする研究以外にも私たち看護師の働き方に関する研究なども聞くことができました。自分たちの働き方が改善されることが患者さんにより良いケアを行うことにも繋がる、そういったメリットがあることを知り、研究の対象によって様々な面から看護を見直すことが出来るのだと改めて学びました。患者さんの状態の変化によって生活の流れ・想いの変化も当然のように伴ってきます。自分たちが日常的に行っているケア、患者さんとの関わり方にも変化が必要とされてきます。ケーススタディを進めている中で患者さんの想いをくみ取るために自分たちができること、考えられることは無限にあるように感じました。こういった取り組みを研究のみならず、日常から意識して目を向けられるように心がけていきたいと思いました。

秋田県看護協会由利本荘・にかほ地区支部看護研究発表会に4名演題発表しました

- SOAPによる記録入力の負担感に関する課題への取り組み
- 筋強直性ジストロフィー患者のBlom[®]気管切開チューブを使用時の発声練習について
—“無気力”に対する意欲を引き出すための関わり—
- 22q11.2欠失症候群患者の車椅子乗車時間を拡大する関わり
- 褥瘡を繰り返す脊髄小脳変性症患者に対する統一したポジショニングの取り組み

病院見学会を始めました

看護師採用推進チーム／東4病棟 看護師長 赤平 諭美子

看護師採用推進チームでは、就職活動中の看護学生や既卒の看護師を対象に病院見学会を行っています。今年度はコロナ禍の影響を受け、見学の受け入れを自粛していました。あきた病院をアピールする機会が減ってしまい心配していましたが、8月に病院見学の開催要望があり、人数を限定し再開しました。8月2名、10月3名の見学者を受け入れました。

11月も希望者がおり開催する予定です。

見学前の健康チェック、オリエンテーション時の換気と十分なスペースの確保、病棟内の見学中止などの感染対策と、病棟外で病棟スタッフが直接病棟の説明をすること

や質疑応答の時間を設ける等の工夫をしました。

1時間という短時間での見学会ですが、見学された方からは「どのような時にやりがいを感じますか?」「コミュニケーションが難しい患者さんと接する際にどのような事を心掛けていますか?」など看護の本質を突くような質問も多く聞かれ、あきた病院の看護をわずかながらもお伝えてきているのかなと感じています。見学者の多くは、ホームページをご覧になり、「あきた病院であればじっくりと患者さんと向き合い、患者さんに寄り添えるのではないか」という思いを抱き見学にいらっしやいます。あきた病院の『癒しの看護』を実際に感じて頂けるような見学会を今後も計画していきます。

重症心身障がい児者病棟患者の近況報告(お手紙)について

北2病棟 看護師長 永澤 晶子

新型コロナウイルス感染症の流行により現在、短時間面会とさせていただきます。ご家族の皆さまには大変ご不便をおかけしておりますが、ご理解とご協力に感謝申し上げます。

面会制限に伴い誕生会や行事も中止となり、患者さんの様子をご家族が知る機会も限られる中、私たちに何かできることはないか考え、毎月、患者さんの近況報告を個別に郵送することにしました。近況報告には、最近の写真と受持ち看護師からのメッセージを添えています。写真は、保育や散歩の様子、患者さんの誕生月には病棟スタッフ

でお祝いした様子などを撮影しています。何枚も撮影し「こっちの写真もいいね」と1枚を厳選する時間も楽しい時間です。患者さんの素敵な笑顔に私たちもたくさん元気もらっています。郵送後、ご家族から喜びのお電話やお手紙をいただくこともあり、とてもうれしく温かい気持ちになります。今後もご家族の皆さまとコンタクトを取りながらやっていきたいと思えます。

インフルエンザの流行時期ともなりますので引き続き安全・感染防止に配慮し、患者さんに寄り添いながら大切に関わらせていただきます。

▲▲ さんの近況

梅雨明けが待ち遠しい折、いかがお過ごしでしょうか。

▲▲さんは元気に過ごしています。毎日車椅子に乗り、保育や散歩に参加しています。この写真は病院敷地内に咲く薔薇を見に行った時のものです。いつも良い笑顔です。薔薇の花が似合いますね。今は梅雨で散歩に行けません、梅雨が明けたらまた散歩に行きたいと思えます。

●● さんの近況

秋の気配が感じられるようになりました。ご家族の皆様いかがお過ごしでしょうか。

先月●●さんは47歳の誕生日を迎え、病棟のスタッフみなでお祝いしました。写真はそのときの様子です。蝶ネクタイをするなど華やかな格好で楽しく誕生日を過ごしました!

これからも、●●さんが元気に歳を重ねられますよう関わっていきたく思います。寒くなってきましたので、ご家族の皆様も体調に気をつけてお過ごし下さい。気になることがありましたらいつでもご連絡下さい。

HAPPY BIRTHDAY

外来担当医表

令和2年11月1日以降

診療科	月	火	水	木	金
内科 1	齋藤	奈良	間宮	間宮	齋藤
内科 2			阿部(糖尿病外来) (第2・4週)		
循環器外来	山本 (第1週)				羽尾
禁煙外来				間宮 (予約制)	齋藤 (予約制)
脳神経内科 1	畠山	豊島	石原 (筋ジス)	阿部	和田
脳神経内科 2	小原	小林		市川	
リハビリテーション科				芋田	芋田
小児科	白崎	渡部※ (メンタルヘルス外来)	白崎	白崎	白崎
外科				秋田赤十字病院	
整形外科			三浦	三浦	秋田大学附属病院
皮膚科	牧		牧		牧
眼科			今井		細部
耳鼻咽喉科				井谷 (第2・4週)	
歯科	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木

外来診療カレンダー

2020年 11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

2020年 12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2021年 1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

●印は休診日です。

受付時間 新患 8:30~11:00 再来 7:15~11:00
診察時間 8:30~17:15(急患はこの限りではありません)

- 再来は予約制となっています。
- 火曜日の小児科、木・金曜日の禁煙外来を初めて希望する場合は事前に連絡願います。
- 火曜日の小児科の診察日は第2・4・5週です(祝日があれば前後の週に振り替えます)。
- 整形外科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科(木・金曜日)の診察は9:30からです。
- 他の病院からの紹介で受診される患者さんは、事前に地域医療連携室までご連絡ください。可能であれば受診の予約をお願いします。

ICTからのお知らせ

- 新型コロナウイルス感染症の蔓延が懸念されています。入院患者への面会は従来と異なる方法で実施しています。詳しくは当院のホームページをご覧ください。
- 風邪症状、胃腸炎症状があって来院する方は、病院入口にある電話(PHS5553)でご連絡ください。 感染制御室

お願い

当院では毎月一度保険証の確認を行っています。外来受診の際など医事窓口へ保険証をご提示ください。また、氏名、住所、電話番号等の変更があった場合も同様に提示をお願いします。

編集後記

10月29日の夜空には、月(月齢13)の近くに赤い火星があって、とても印象的でした。ご覧になった方も多いと思います。三日月と金星が接近して見えるシーンも好きです。ある研究者の記事にあった「月は天空の石ころ」というのは、とてもショッキングな言葉でした。でも、夜空を見て楽しむには「石ころ」というよりも「天空の宝石」のように思えます。月に惑星が寄り添う光景は、とても印象的です。あきた病院は西側が海に面し、きれいな日没が見られます。更に、月と惑星が並んで、海に没する光景も、見ごたえがあります。(編集委員S)



独立行政法人国立病院機構
あきた病院
 秋田神経難病医療センター

地域医療連携室
TEL 0184-73-2978 FAX 0184-73-2979

〒018-1393 秋田県由利本荘市岩城内道川字井戸ノ沢84-40
 TEL 0184-73-2002 FAX 0184-73-2370
<https://akita.hosp.go.jp/>

発行責任者 院長 奈良 正之
 編集委員会委員長 臨床研究部長 和田 千鶴

初めてお越しの方は を目印にしてください。 ●案内看板
 ●車で羽後本荘駅から28.1km 30分 ●車で秋田駅から23.2km 32分